

第33号

有機健康 つうしん

遠赤青汁通信 (H27.12.1発行)

陽光桜にかけた世界平和への想いを届けていきたいと願います。

遠赤青汁株式会社
TEL 791-0398 愛媛県東温市則之内甲2225-1
TEL フリーダイヤル **0120-148-162**
ホームページ <http://www.enseki.com>

「陽光桜」の映画が完成しました。
亡父正明の想いを世界へ届けます。



左から高岡照海、正明(故人)、令恵



完成した陽光の苗を父は日本だけでなく世界各国に贈っていました。1本1本丁寧にのしをつけて送ります。



「1983年3月陽光の原木の前で」と写真の裏に正明の直筆で書かれた写真。誇りげです。



たくさんの御礼の手紙が毎日のように届きました。

多くの方に「ご支援をいただき「陽光桜」の映画が完成しました。映画化の話をお願いした際には、正直ビックリしました。まさか、父の人生が映画になるとは思いもよりませんでした。

いかと、思っております。関係者の方々に多大なるご尽力を賜り、感謝申し上げます。

試写会は、東温市内の劇場で行われました。エキストラで参加していただいた方や、サポーターとしてご支援いただいた皆様には、誠にありがとうございました。大変な思いをされて生まれてきたんだね。本当に偉かったよ。」

「お父さんは、面白い人やつたんやね。」皆様のご感想を聞かせていただき、改めて映画になってよかった

と感激しています。

亡父高岡正明は、戦時中国民学校の教師をしており、教え子たちに「日本は神の国だ。戦争に負けるはずがない。元気にこの桜の元に帰ってこい」と送り出しました。しかしながら、その多くは戻ってきませんでした。教え子を失った悲しみと、その悔恨から戦地に桜を届けようと、暑い場所でも寒い場所でも育つ強い桜を作ることを決意します。

「何でもそうまでして桜を作らないかんのじゃ。もう止めてくれ。」いつ完成するかも分からない桜の育成に散財し、家族の生活も顧みない父に、私は猛反発しました。我慢も限界にきた頃、ようやく重い口が開きます。「どうしても、この桜だけはやらせてくれ。」父の涙を見たのは初めてでした。

昭和五十六年五月二十七日、さくら「陽光」は品種登録されました。試行錯誤を繰り返して、二〇〇種類ありの中から最良の組み合わせで作り出され、「天地に恵みを与える日の光」という意味の「陽光」と命名しました。桜としては全国で初めての登録でした。



ローマ大使館から届いた、お礼状。翻訳されたカードを見てローマ法王に手紙を書いたことを知りました。

ある日突然、警視庁公安部の人が現れ「高岡正明さんはどんな人物か」宮内庁からの身元調査にきました。そういえば「天皇陛下に電話をかけるには、どうしたらええんやろか。」と父に聞かれたような。まさかと思う様なことは続きます。英語の手紙が届いたのでなんだろうと開けてみたら、なんとローマ大使館からの礼状でした。中には、法王に手紙をいただき感謝しますと書かれていました。首相が交代すると首相官邸に「就任おめでとうございます。」と電話したり、月の電話代が十万を超える事もありました。確かに映画になっても面白いぐらいのネタには尽きません。家族はそれなりに大変でしたが、今となっては思い返すと懐かしい豪快伝説です。

父は二〇〇一年九月十日に永眠しました。平和を願ってやまなかった父が亡くなった途端、同時多発テロが起きました。通夜の日に見たテレビの光景が忘れられません。どうしたら父の想いを届けられるのだろう。「戦争はいかん。やったらいかんのじゃ。」父の言葉を思い出します。

来年、激戦地であったミャンマー(旧ビルマ)に千本の陽光を贈ります。愛媛県人も多く眠るかの地に、陽光が咲いて「会いにきたぞ」と父の声が届くことを願っています。

これからも、ずっとその想いは変わりません。今後も、ご支援ご協力のほど、よろしく願いいたします。
(代表取締役 高岡照海)

農地再生に

挑む



素晴らしい良く晴れた十月の土曜日に、ビジネス実習でもお世話になっている東温高校の皆さんと作業所の方々に集まっていただき、にんにくの種を植え付けました。

毎年、学校で募集をかけていただき、希望者が農業体験としてやってきます。今年の収穫に来てくれた生徒さんもありますし、農業に触れることは全くないという生徒さんもいます。せっかくのお休みに来てくれる高校生達も、良い経験を積んでもらいたいといういろいろと準備も大変です。

一度収穫に参加した生徒さんたちは作業の飲みこみも早く、動きも違います。初めて農業体験を行う生徒さんを上手にリードしてくれます。農場のス



既にマルチが張っており、穴に種になるにんにくを落としていきます。



既に穴があいているマルチを使います。突起の先を合わせて種を落とす穴を一列ずつ掘っていきます。慎重になりすぎると、進みが遅くなるので真剣です。



この日は、地方祭でした。この地区のだんじりが通ります。鐘を鳴らしながら通るだんじりに、作業をしながらも興味津々でした。※松山は神輿なのでだんじりは珍しいのです。

「農地再生に挑む」では、放置された農場を再生し、有機圃場として生まれ変わる様子をシリーズとしてお伝えしています。

タッフは教え方を確認して、出来るだけ見守るサポートに徹します。こういう農業体験は自主性が大事です。

既に農場にはマルチと呼ばれる黒いシートが張られていました。数えてみると六十二本ありました。横に小さい穴が4つ空いていて、それが縦に五十くらいの長さになりますので、一本あたりで二百穴。ここだけで約一万二千個を超える種が植えられています。

穴の幅はにんにくの種が横になるくらい、の大ききで空いています。でも、横に種を落としてしまうと、芽が出るのに横に向いてから穴の開いているところを目指すことになり、芽が曲がって生えてしまいます。穴に落とすだけに見えますが、植え付けは気を使います。

この農場ににんにくを植えるのは初めてです。にんにくは大地のパワーを



前回の収穫祭にも参加してくれた二人。なんでも髪を束ねずそのままにしていたら作業が大変だったので、今回は「気合いの三つ編みで参加しました」と笑顔。体験から学んでくれる姿がうれしいですね。

吸い取って育ちます。毎年、同じ農場で育つものではありません。連作は出来ないのです。

去年は雨が多かったので、育ちも悪くて廃棄しなくてはならないものもありました。今年も、いろいろと試行錯誤しながら、育てていきます。温暖化が進み、気候も安定しませんが、農業は自然相手なので毎年が真剣勝負。何年やっても、難しさを感じます。それだけに、大きくてきれいなにんにくが育つと嬉しさも格別です。収穫は来年です。皆さん、また収穫に来てくださいね。

頑張る遠赤青汁

太陽光発電事業も新展開へ

昨年より取り組みをスタートした太陽光発電事業も、第二段階を迎えています。

住居の屋根に設置してあるような大型パネルの設置に加え、農業と共存するタイプの太陽光パネルへと移行しています。



パネルサイズはずいぶん小さいものになりました。枠組みはなんとも華奢に見えるのですが、パネル自体が小さく軽量になったため、細い柱でも支えられます。このくらい、空間が空いていると太陽光パネルの下でも、植物に光が当たりますし、高さもあるので作業も出来ます。実際にこの枠組みの中に、トラクターを入れて土を鋤きこむ作業も行いました。農場としての機能を保ちつつ、太陽光発電も行つ。これから農業一本では後継者にも負担がかかるのではと考えていらつしやる地域の方々にも大きな提案となりました。離農を減らし、農業の衰退に歯止めがかけられればと願います。

弊社では現在、この農場で陽光桜の苗木を育てています。今後、農業共存タイプの太陽光発電を増やし、地域農業の復興に努めていきたいと思っています。



EVENT

「四国物産展」 in 香港そごう 2015.6.17~23



日頃は伯方塩業大三島工場で石けんを販売している河原さん。石けん販売のカリスマ的存在です。（写真左端）

香港そごうでの「四国物産展」も今回で六年連続の開催です。リピーターの方も増え、青汁や黒にんにくも人気です。香港は日本人も多く、日本の食品も百貨店で買えます。しかし、四国の物産を集めた今回の様なイベントは、販売する商品も地域色豊かで懐かしい方言も聞けるので、楽しみにしていただいています。



多くのお客様のご来場をいただきました。看板がそれぞれの商品を表わしています。スタッフも説明に頑張りました。

今回は初めて石けんの販売にチャレンジしました。普段は、伯方塩業（株）大三島工場で販売している石けん販売のベテランスタッフも参加して、新商品「陽光夢石けん」「陽光ローション」を販売しました。日本での販売と同じように、石けんを泡立て、まずは使っていただきます。洗いがりのしっとり感を体験していただきたからです。やはり、実際に石けんの泡を体験していただくのと購入にも繋がりがりやすかったです。

「日本語が通じるお客様には、いつも通りの説明が出来るのですが、英語で質問されると通訳を介しての説明となり、言いにくいことが伝わらなくて、もどかしく感じました。また、お客様に足を止めていただくことの難



高岡も青汁の試飲をお客様に勧めながら、積極アピール！「まずは飲んでみて」と案内すると試飲に殺到！

しさを痛感しました。説明方法や興味を持っていただくにはどうしたらいいだろうと毎日考え、実践しました。いろいろ勉強になり、今後の販売に生かせる良い体験が出来ました。」とスタッフも、想いを新たにしてくれました。

また、来年も工夫をして、遠赤青汁製品の良さ、四国の良さを発信したいと思っています。



会社の取り組みなどは、まずは写真で。いろいろな資料を見せて、遠赤青汁を知っていただきます。



四国八十八箇所 五十七番札所 府頭山 無量寿院 栄福寺

(ふとうざん むりょうじゅういん えいふくじ)

愛媛県今治市玉川町八幡甲200



波が速く「瀬戸の難所」といわれてきた今治沖の来島（くるしま）海峡の風波海難の平穏を祈って、弘法大師空海が、海中から引き揚げられた阿弥陀如来像を本尊としたのがこの寺のはじまりと伝えられています。

本堂の回廊には箱車が奉納されています。これは昭和のはじめの少年遍路のもの。当時15歳で足の不自由だった彼は、犬に引かせた箱車に乗って札所を巡っていました。この寺に着いたとき、のどの渇いた犬が庭を流れる小川の水を飲もうとして急に走り出します。その勢いで少年は転倒し足を強く打ったのですが、そのとき、足の悪いのが治って、歩けるようになったといひます。少年は不要になった車を奉納して、旅立っていきました。この霊験にあやかってこの寺には病気の平癒を願ってお参りする人が数多く、残されている箱車の中には、快癒を感謝して納められる松葉杖やギプスが納められています。

映画にもなった「ボクは坊さん」の作者白川密生さんはここの住職をされています。

「攻めのＩＴ経営中小企業百選」に 四国で唯一、選定されました。

近年、ＩＴの高度化によってかつてないほどにＩＴ製品やシステム及びサービスが充実し、地方企業が革新的なＩＴの活用により業界をリードするなど存在を高めています。

従来より我が国企業のＩＴ投資の目的は、社内の業務効率化・コスト削減を中心とした『守り』に主眼が置かれてきました。しかし、海外企業においては、ＩＴの活用による企業の製品・サービス開発強化をはじめとした新たな価値の創出や、それを通じた競争力の強化を目指した、いわゆる「攻めのＩＴ投資」を積極的に行っています。

経済産業省はＩＴの効果的な活用に積極的に取り組み成果を上げている中小企業を「攻めのＩＴ経営」の観点から評価し、ＩＴ活用内容等について優れた中小企業を、今後三年間を目標に百社選定する「攻めのＩＴ経営中小企業百選」を創設しました。



全国から選ばれた企業の皆様と記念撮影。今回は、営業企画部の渡部が出席させていただきました。(前列右から3番目)緊張のあまり表情も固いです。

弊社では平成十九年から二十五年にかけて「中小企業ＩＴ経営力大賞」

ＩＴ経営実践認定企業を七年連続で受賞、いわゆる『守りのＩＴ経営』には評価をいただいていた。しかし今回の「攻めのＩＴ経営中小企業百選」では観点も違い、弊社の取り組みを伝えるには大変苦心致しました。応募の切りが近づいてもまともらず、諦めかけたのですが、地元ＩＴコーディネータのご支援を受け、無事に応募ができました。本当に助かりました。おかげさまで、攻めの分野でのＩＴ活用についても評価をいただくことが出来、初年度全国三十三社の中に選ばれました。四国では唯一の選定でした。

十月二十七日に行われた表彰式に高岡の代理で参加させていただきました。緊張もしましたが、なにより受賞企業の社長さんに直接お話を聞けたことが嬉しく、感動しました。弊社よりも社員数の少ない企業さんもうらっしゃいましたが「ＩＴを活用して創意工夫で乗り切ってます。これからも攻めますよ。」と誇らしげに語ってくださいました。元気な企業さんはすごい。おおいに刺激を受けました。

お客様に安心していただける会社作りのために、ＩＴ活用はもとより、ますます努力精進していきたいと思っています。ありがとうございました。

(営業企画部 渡部一恵)

陽光桜の
フェイスブック
ページが
出来ました!



2014年、東日本大震災の被災地に桜を植樹しました。



陽光桜について、この「有機健康つうしん」でも、定期的にお知らせしていますが、今まで載せられていない写真もたくさんありました。

今までの植樹や陽光に携わる人々の話をどうやってお伝えしようと考えてきましたが、映画公開に合わせてfacebookページを作製しました。

年代ごとに、いろいろな出来事がありました。10年以上前になると、社長も若かったなあ、少し太ってたかな?等と陽光だけでなく私たちの成長も見取れるものになりました。

陽光桜は、平和を願って届けられる桜です。多くの方に、故高岡正明氏の想いを伝えていきたいと思っています。



2004年にリトアニアに陽光を植樹しました。このご縁が続き今回の映画にも後援をいただきました。